

# 社会福祉学研究科の学修成果の評価及び修了の基準

## 学修成果の評価

弘前学院大学大学院学則第 14 条に基づき、成績の評価は、各授業科目について、優、良、可、不可の 4 種類の標語をもって表わし、これらのうち、優、良、可を合格とする。

## 履修課程と修得単位

社会福祉学研究科人間福祉専攻の履修課程と修得単位数とは、人間福祉特論科目として、キリスト教社会福祉に関する特論科目 2 単位と、領域別の特論科目 20 単位、演習科目 4 単位と、実習科目 4 単位の 3 分野から成っている。修士課程修了に要する合計単位数は 30 単位である。

## 修士論文の審査と合否

### (1) 修士論文の指導と提出

修士論文の作成に当たっては、指導教員の指導の下に論文題目を設定することが必要である。

#### 1 年次

- ・ 入学時における事前の研究計画を再考し、論文の構想を練るための準備期間とする。

#### 2 年次

- ・ 5 月末日までに指導教員を決定し、論文題目を登録する。
- ・ 登録後は、指導教員が担当する人間福祉演習（通年）を受講し、修士論文の作成をすすめる。
- ・ 修士論文は別に定められた様式にしたがって作成する。
- ・ 修士論文の中間発表会を秋に実施する。
- ・ 修士論文の提出は、修了年の 1 月 15 日とする。
- ・ 修士論文提出後に、口頭試問を行う。
- ・ 修士論文発表会を 2 月中旬に公開で行う。

### (2) 修士論文の審査と合否

修士論文は、提出論文および口頭試問の結果を総合的に評価する。

すなわち、論文評価得点 30 点以上、口頭試問得点 30 点以上を必須条件として、最終的に修士論文の合否を決定する。論文査定は以下の 10 項目に関して重点的に審査する。

論文の評価は以下の 11 項目についての 5 段階評定方式によるが、総点を 50 点満点とし

て30点以上を合格域とする。

- ① 研究の背景、研究目的が明確に記されている。
- ② 先行研究のレビューが十分に行われている。
- ③ ②を踏まえた上で、問題が明確に設定されている。
- ④ 問題を解明するための適切な方法が選択され、それが明示されている。
- ⑤ 全体が論理的に構成されている。
- ⑥ 文章表現が適切である（引用の仕方、文献表記の仕方も含む\*\*）。
- ⑦ データや資料を分析する際の処理が適切である。
- ⑧ 問題設定に対応した結論が示されている。
- ⑨ 新しい知見が含まれている。
- ⑩ 表題が内容を適切に表現している。
- ⑪ 研究倫理についての配慮が適切になされている。

\* 引用の仕方、文献表記の仕方は、日本社会福祉学会機関誌『社会福祉学』に準ずる

### （3） 修士論文に関する口頭試問

修士論文の口頭試問は、主として論文に関係する事項について行うが、関連して研究者としての資質、パーソナリティと態度などの印象も参考にする。

口頭試問の評価は、以下の10項目についての5段階評価方式による。総点は50点で30点以上を必須条件として合格域とする。

- ① 研究計画の説明・表現力に関して研究計画の内容を簡潔に話せる。
- ② 研究目的、具体目標を即座に陳述できる。
- ③ 結果を簡潔に陳述できる。
- ④ 聞きやすさと分かりやすさ、話の間のよさ、説得力のある話し方と顔面表情。
- ⑤ 謙虚で誠実な傾聴態度がみられる。
- ⑥ 質問に対する応答、フィードバックする能力（自己の研究計画の不十分な点や残された問題の気づきと指摘など）
- ⑦ 研究者としての志向性と態度に関して研究活動・学問への情熱、意欲がみられる。
- ⑧ 研究に取り組む際のねばり、こだわり、ひたむきさがある。
- ⑨ 問題意識水準の高さと問題中心の思考態度、思考内容のまとまり具合
- ⑩ 問題処理過程での分析・総合力と思考水準の高さ、思考の深まりと意識の清明さ